

授業科目名	感 染 と 防 御			担当教員	中山 浩次	
開講年次	1 年後期	セメスター	2		時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	必修	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	国内外の感染症の現状、感染症の原因となる病原微生物、生体の感染防御機構、感染性疾患の病態、治療、予防、対策（消毒・滅菌、ユニバーサルプレコーション、感染経路別対策、法律）についての基礎知識を修得する。					
到達目標	個々の病原微生物の有する性状・特徴・病原性・標準予防策・感染経路別対策・滅菌・消毒法・感染防御免疫を理解し、感染の予防を行うことができる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目はとくに以下のディプロマポリシーの達成と関連する。 問題解決力：グローバル社会における健康ニーズを把握し、科学的根拠に基づいた解決策を考え、実践・評価することができる。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
		◎		○		
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	微生物学総論－微生物とはどのような生物か（細菌、ウイルス、原虫、真菌、プリオン）	講義	各微生物の特徴（復習）		90 分	中山
2	感染症の現状－院内感染、人獣共通感染症、国際感染症、バイオテロ	講義	おもな感染症（復習）		90 分	中山
3	感染－微生物と生体とのかかわり（感染とはなにか、伝播様式、各種検査・診断法） 実習Ⅰ－手指消毒、鼻腔の細菌検査	演習	手洗い、消毒前後の手掌の菌の培養 鼻前庭の細菌の培養（復習）		90 分	中山
4	実習Ⅱ－手指消毒、鼻腔の細菌検査の培養結果判定	演習	培養結果の判定、レポート作成（復習）		90 分	中山
5	感染症の予防とコントロールⅠ（法律関連、化学療法と免疫療法）	講義	感染症法による類別および治療薬、耐性菌（復習）		90 分	中山
6	感染症の予防とコントロールⅡ（消毒＆滅菌、標準予防策・感染経路別対策）	講義	消毒薬の選択根拠、微生物毎の感染対策法（復習）		90 分	中山
7	生体の感染防御機構Ⅰ（総論）	講義	免疫の仕組み（復習）		90 分	中山
8	生体の感染防御機構Ⅱ（アレルギー、自己免疫疾患、免疫学的検査法、ワクチン）	講義	免疫機構の暴走による疾患、ワクチン効果としての免疫（復習）		90 分	中山

9	細菌総論・各論Ⅰ（スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア）	講義	一般細菌・リケッチア・クラミジア・マイコプラズマの違い（復習）	90 分	中山
10	細菌・各論Ⅱ（グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性桿菌）	講義	ブドウ球菌、溶連菌、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、腸管感染症（復習）	90 分	中山
11	細菌・各論Ⅲ（カンピロバクター属、ヘリコバクター属、グラム陰性桿菌、抗酸菌、放線菌、嫌気性菌）	講義	抗酸菌感染症、細菌性食中毒、性感染症（復習）	90 分	中山
12	ウイルス感染症総論・各論Ⅰ	講義	腫瘍ウイルス、DNA ウイルス、RNA ウイルスの一部（復習）	90 分	中山
13	ウイルス感染症各論Ⅱ（プリオン病を含む）	講義	RNA ウイルスの一部、肝炎ウイルス、プリオンの特徴、対策等（復習）	90 分	中山
14	真菌感染症、原虫・寄生虫感染症	講義	病原真菌、原虫、寄生虫およびそれらによる感染症（復習）	90 分	中山
15	まとめ	講義	国家試験過去問題を参考に全体を整理する（復習）	90 分	中山
先行履修科目					
テキスト		水口康雄 他：ナースのための微生物学（改訂 6 版）、南山堂、2017.			
参考文献		富家恵海子：院内感染、河出文庫、1997.			
評価方法		筆記試験（80%）、実習レポート（10%）、「院内感染」の感想文（10%）提出の総合評価			
教員等の実務経験		嫌気性菌を中心とした微生物研究に長年従事した経験のある教員が、その経験を活かして国内外の感染症の現状、感染症の原因となる病原微生物、生体の感染防御機構、および感染性疾患の病態、治療、予防および対策について講義します。			